

看護大構想

財政面の支援も

倉吉市長「実現目指す」

倉吉市の石田耕太郎市長は4日の市議会本会議で、鳥取短期大学(同市福庭)が受け皿となる「看護大学」構想について、「万難を排して取り組み、実現を目指す」と述べ、財政支援を含めて支援体制づくりを進める考えを示した。石田市長は9月議会閉会后、同構

想実現に向けたプロジェクトチーム(PT)を市役所内部に立ち上げる考え。

短大側は看護大学の受け皿となる場合、現

在の1学年定員300人を維持したまま現行3学科の定員組み換えで、1学年80人の4年制看護学部を新設して対応する事業計画を策定。看護学部新設が可能になる前提条件として、初期費用約16億円のうち「13億円の公的支援が必要不可欠」としている。

この日の一般質問で段塚広文、丸田克孝両議員が「医療の高度化や特色ある地域づくりの期待が膨らむ。中部一丸で取り組む課題」

と同構想実現に積極的な対応を求め、石田市長は「市財政は予算を許さない状況だが、(大学構想は)企業誘致以上の効果もある」と強調。その上で「財政面もやりくりして応援したい。関係者と歩調を合わせて取り組む」と答えた。

石田市長は先月末、県中部の4町長に対して同構想実現への協力を要請。近日中に同短大の山田修平学長と意見交換する予定だ。